

令和六年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品

別府市教育長賞

「ぼくの体」

別府市立朝日小学校三年 小野 信平

ぼくは、みんなより、しん長がひくくて、やせている。

それは、お父さんがしん長がひくくて、お母さんがやせているからだ。

よく友だちに、

「なんで小さいの」

「小さいから高い所がとどかない」

「チビ」

と、言われたことがある。

そんな言葉を聞いて、

「ぼくはなりたくて、小さくなったんじゃない」

「小さいのがそんなにへんなの？」

くやしく思いました。

友だちも、わるい気もちでそんな言葉を言ったんじゃないかもしれないけれど  
なぜかぼくはきずついた。

ぼくだって、大きな体がうらやましい。

でも、こんな小さなぼくでも、とくいなことは、いっぱいある。

てつぼうや、算すう、体いく、野球もがんばっている。

その中でも野球は、体が大きくて力が強い方がゆうりなスポーツなのかもしれ

ない。けれどぼくは、野球が大好きだ。

お父さんは、こんなぼくのために、小さくても活やくできるように、バツティン  
グで遠くにとばす方ほうや、ピッチングのフォーム、しゅびで頭をつかうことな  
ど、いっしょうけんめい考えてアドバイスをしてくれる。

それは、とってもむずかしくて、なかなか上手にできないけれど、できたときは  
うれしい。これができたら、次はこれがんばれといつもおうえんしてくれてい  
る。

ぼくは、その気持ちにこたえたい。そのためにも、小さいなんてなやんでいられ  
ない。

人それぞれ、太っていたり、大きくなりすぎたり、目が見えなかったり、耳が聞  
こえなかったり、足がふじゆうで歩けない人もいっぱいいる。

そんななやみを持ちながらも、みんなとくいなことや、好きなことがいっぱいあ  
るはずだ。

人が気にしていることを、何も考えずに言うんではなく、いいところ、すごいと  
ころをたくさん見つけて、ほめあえるようになる、いじめもなくなり、みんなが  
えがおで、楽しくすごせると思う。

ぼくも、たくさん人のいいところをさがして、ほめてあげれる人になって、いや  
な気持ちになったり、きずついてかなしんでいる人を見つけたら、たすける事がで  
きる、かっこいい人になれるようにがんばりたい。

そして、お父さんと、お母さんにもらったこの体がじまんできるように、もっと  
いろんなことにちょうせんしたり、けいけんをしつづけて、かっこいい大人になっ  
て、おやごうごうしたいと思う。